

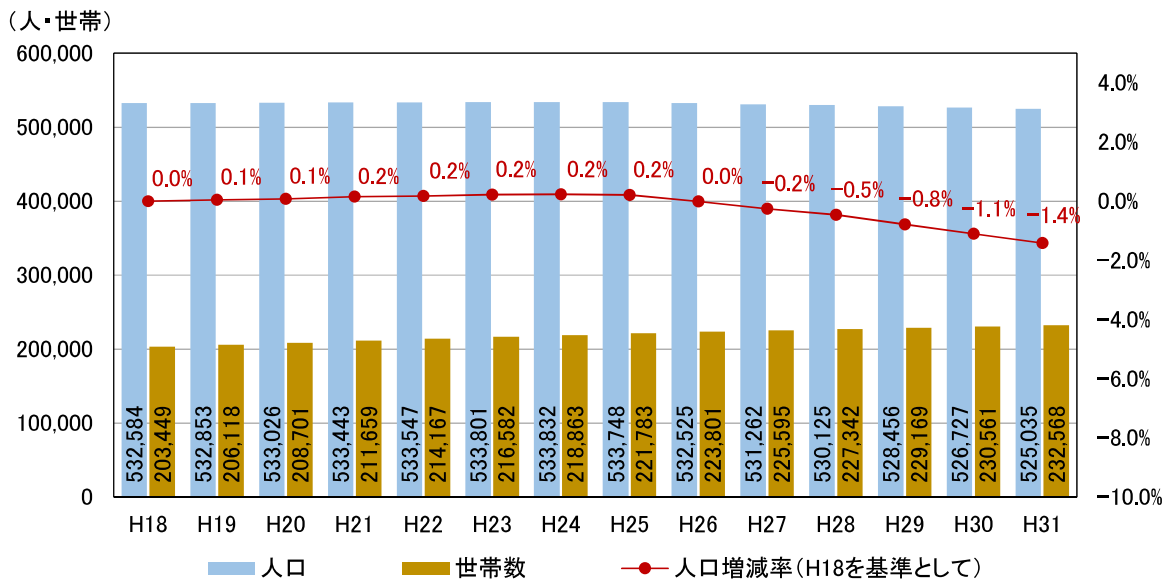
(2) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

① 人口動態に関する状況

1) 中心市街地の人口

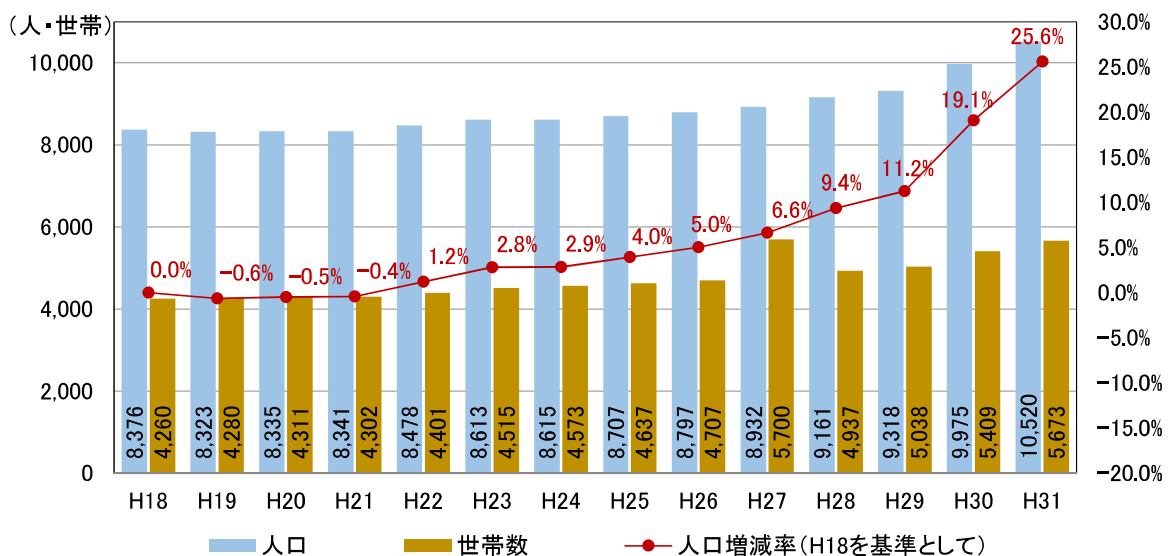
本市全体の人口は、平成31年3月末時点で525,035人であり、平成24年3月末時点をピークに減少傾向が続いている。中心市街地の人口は、平成31年3月末時点で10,520人であり、増加傾向にある。平成18年3月末を基準とした人口の増減率を比較すると、本市全体は緩やかに減少しているのに対し、中心市街地は平成22年以降から、次第に大幅な伸び率となり、平成31年3月末時点では、約26%の増加となっている。

世帯数は、本市全体で232,568世帯、中心市街地で5,673世帯となっており、ともに増加傾向にある。



● 姫路市全体の人口と世帯数の推移(各年3月末)

(資料:姫路市人口統計)

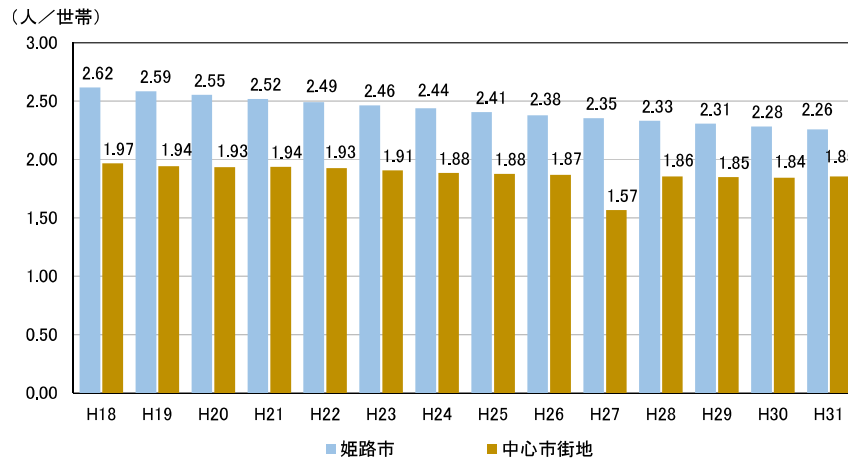


● 中心市街地の人口と世帯数(外国人含む)の推移(各年3月末)

(資料:姫路市人口統計)

2) 中心市街地の世帯人員

世帯人員は、本市全体と中心市街地ともに減少傾向にある。平成31年3月末時点で本市全体の2.26人/世帯に対して、中心市街地は1.85人/世帯となっており、中心市街地における世帯の小規模化が進行している。



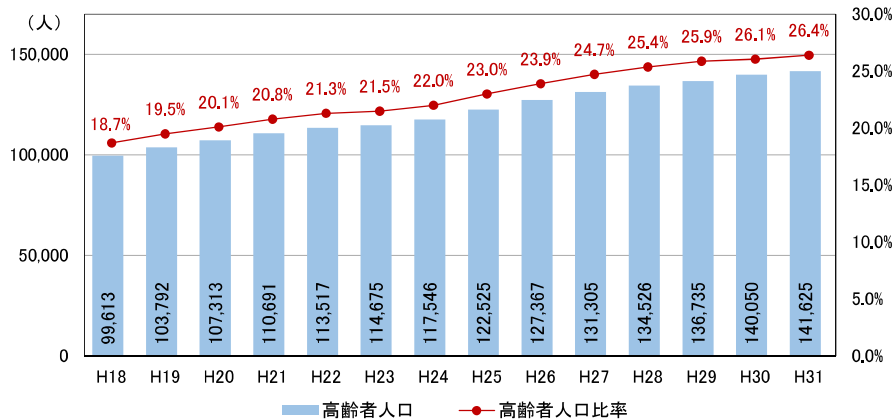
● 姫路市全体と中心市街地の世帯人員(各年3月末)

(資料: 姫路市人口統計)

3) 中心市街地の高齢化率

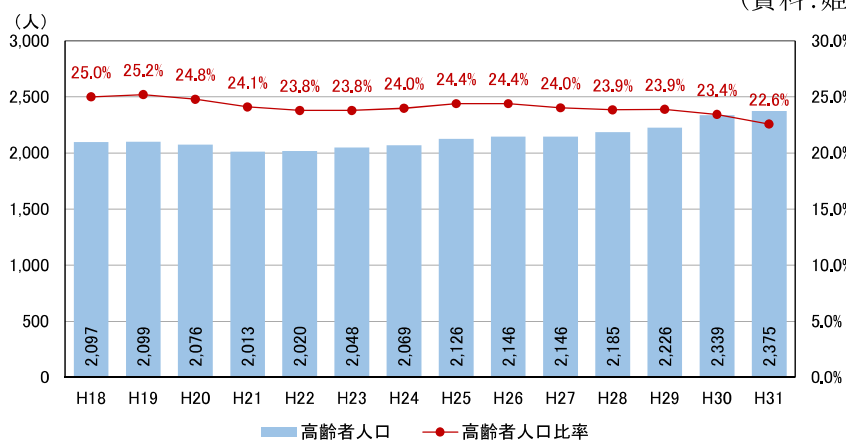
平成31年3月末時点の高齢者人口は、本市全体と中心市街地ともに、増加傾向にある。

高齢者人口比率をみると、平成31年3月末時点で、本市全体で26.4%、中心市街地で22.6%となっている。平成27年以降、中心市街地の高齢者人口比率が低下していることから、中心市街地への若い世代の流入がうかがえる。



● 姫路市の高齢者人口と同比率(各年3月末)

(資料: 姫路市人口統計)



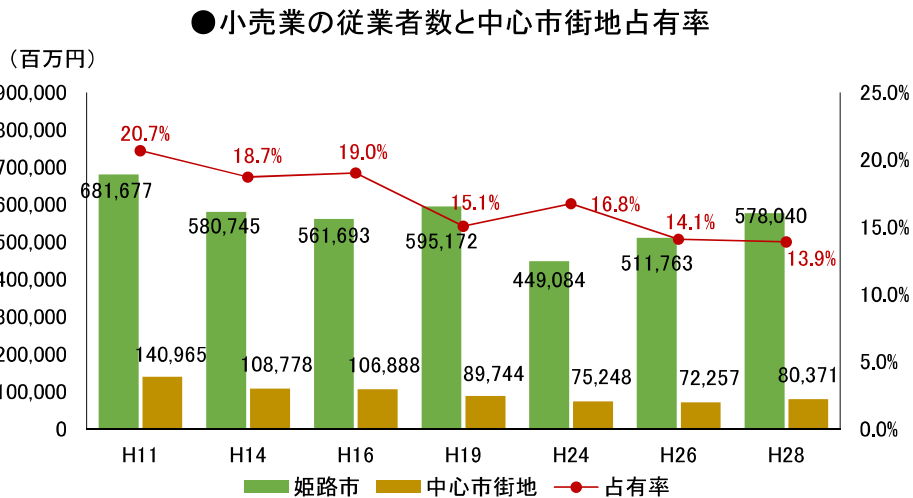
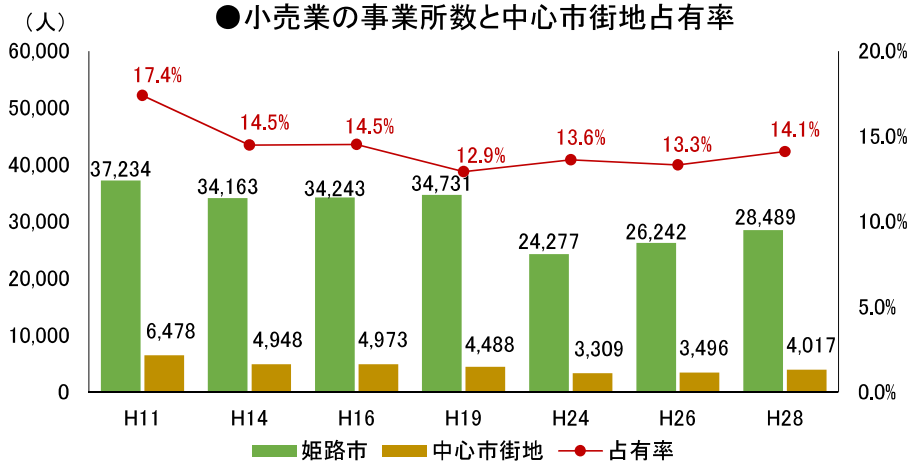
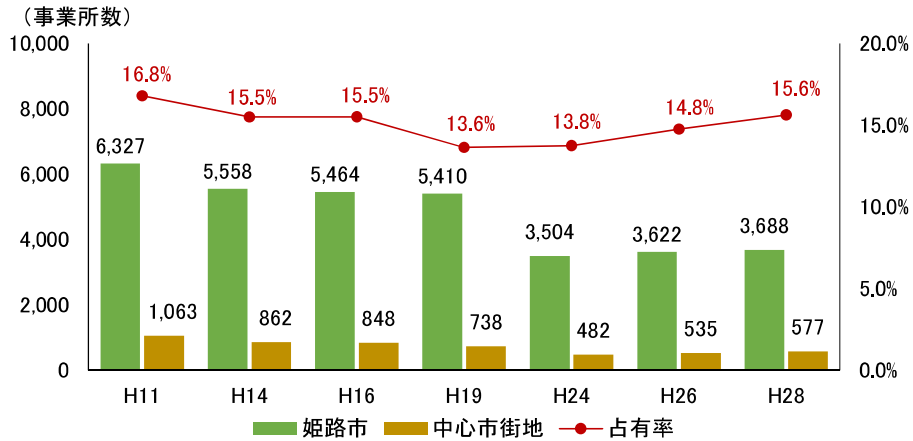
● 中心市街地の高齢者人口と同比率(各年3月末)

(資料: 姫路市人口統計)

②商業に関する状況

1) 中心市街地の小売業

小売業の事業所数と従業者数は、本市全体と中心市街地ともに、平成11年度から減少傾向にあったが、平成26年度から増加に転じており、中心市街地の本市全体に対する占有率は年々高まっている。中心市街地の年間商品販売額は、平成26年度から増加しているが、中心市街地の本市全体に対する占有率は微減となっている。



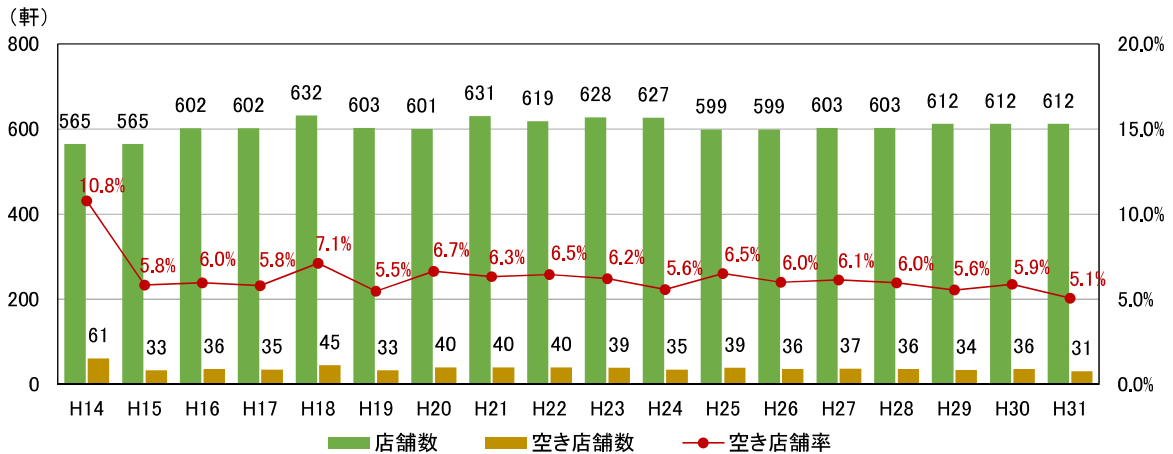
(資料: H11~19, H26商業統計調査 H24, H28経済センサス活動調査)

※中心市街地は、H19までは城南小学校校区・城巽小学校校区内の合計、H26以降は白鷺小学校校区内の数値を採用
 ※平成26年調査は日本標準産業分類の改定及び調査設計の大幅変更に伴い、平成19年調査と接続しない。
 また、平成24年経済センサス活動調査も平成26年調査と集計対象範囲が異なる。

2) 中心市街地の空き店舗数

中心市街地商店街の店舗数は、平成31年3月末で612軒あり、そのうち空き店舗数は31軒で空き店舗率は5.1%となっている。空き店舗数は、平成26年3月末から平成31年3月末の5年間で5軒減少している。

商店街別にみると、「西二階町商店街」では、5年間で最も多い7軒の減少となっている。一方、「本町商店街」、「姫路御幸通商店街」では、3軒ずつ増加している。

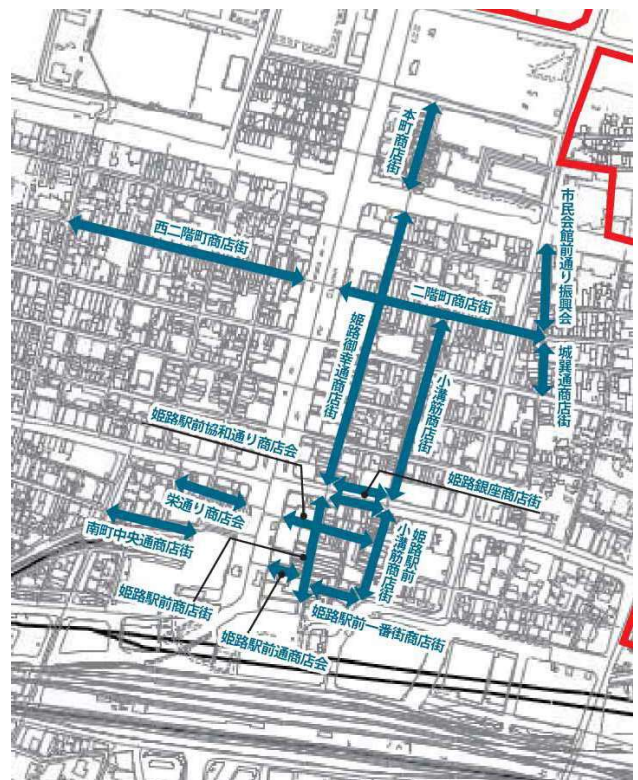


●中心市街地商店街の店舗数と空き店舗数(各年3月末)

(資料:店舗数-兵庫県団体名簿等、空き店舗数-姫路商工会議所・姫路市調査)

■商店街別の空き店舗数

商店街名	H26年 3月末	H31年 3月末	増減
本町商店街	1	4	+3
西二階町商店街	9	2	-7
二階町商店街	5	3	-2
姫路御幸通商店街	3	6	+3
小溝筋商店街	2	3	+1
姫路銀座商店街	1	1	0
姫路駅前商店街	1	3	+2
姫路駅前小溝筋商店街	1	1	0
姫路駅前協和通り商店会	1	1	0
姫路駅前一番街商店街	0	0	0
姫路駅前通商店会	1	1	0
栄通り商店会	4	3	-1
南町中央通商店街	0	0	0
市民会館前通り振興会	2	1	-1
城巽通商店街	5	2	-3
合計	36	31	-5



●姫路市中心市街地商店街位置図

(資料:店舗数-兵庫県団体名簿等、空き店舗数-姫路商工会議所・姫路市調査)

※空き店舗は、現地調査にて元の店舗が閉鎖あるいは既存のテナントが退店し、その後入居するテナントが決まっていない状態の店舗とする。

※店舗数、空き店舗数は1階にあるもののみ集計

3) 中心市街地の大規模小売店舗数

現在、中心市街地には大規模小売店舗(店舗面積1,000㎡以上)が11店舗ある。前計画が策定された平成27年度以降に、姫路フォーラスとヤマトヤシキ姫路店が相次いで閉店した。

平成27年度以降に建設された大規模小売店舗は、本市全体では21店舗(50,348㎡)であり、活発な出店が続いている。このうち、中心市街地においては、「テラッソ姫路」「マルイト姫路ビル」の2店舗(12,135㎡)が出店した。新たに出店した大規模小売店舗の面積比率では、中心市街地が本市全体のは4分の1を占め、出店した2店舗により、駅周辺における集客力や滞在時間の高まりが期待される。

■平成27年度以降に立地した大規模小売店舗

	店舗数	店舗面積(㎡)	面積比率
姫路市全体	21	50,348	100.0%
中心市街地	2	12,135	24.1%

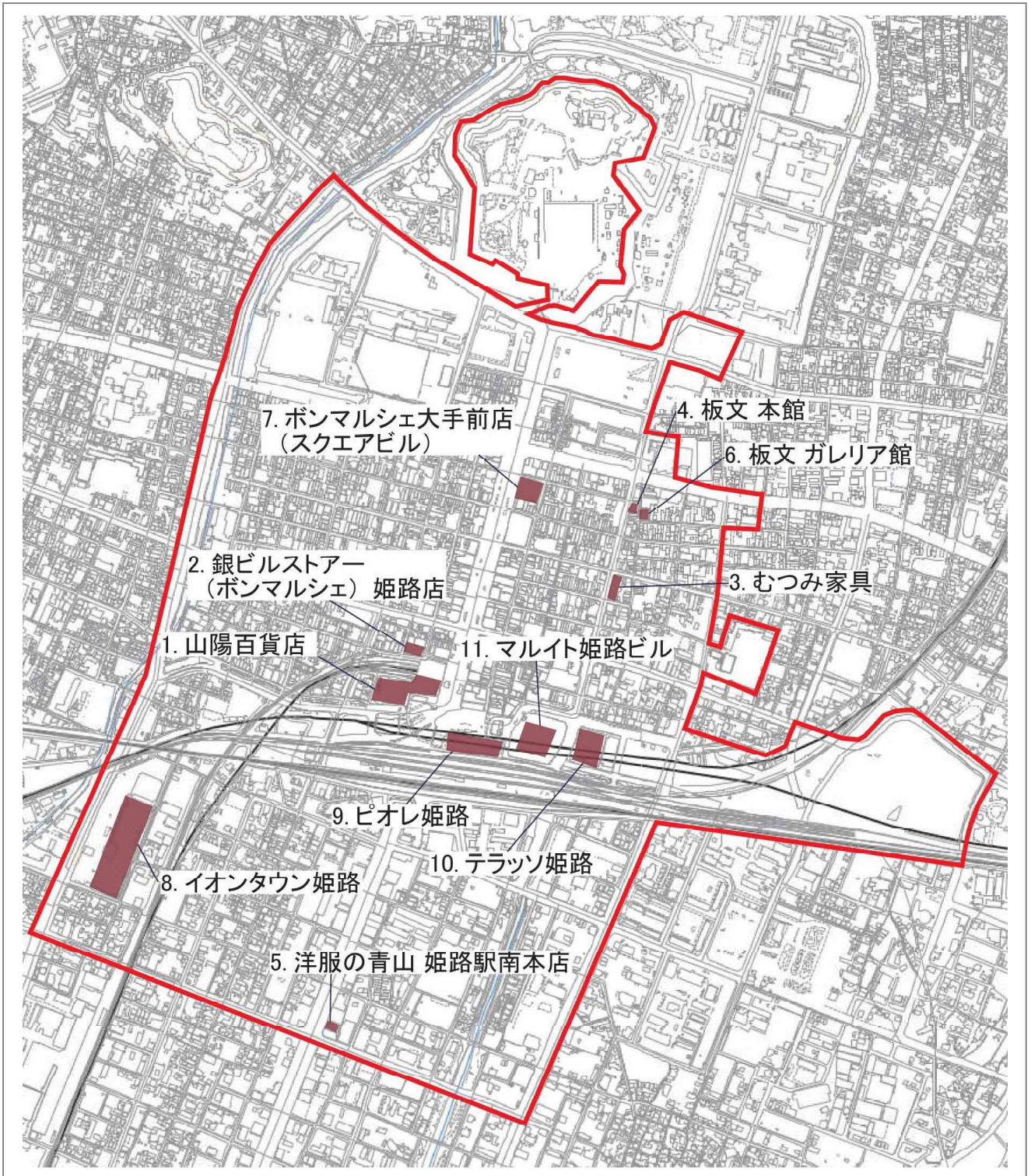
(資料:大店立地法届出)

■中心市街地における大規模小売店舗

	店舗名	業種	店舗面積	開店日	閉店
	ヤマトヤシキ姫路店	百貨店	17,051	S22.3	●
1	山陽百貨店	百貨店	27,488	S28.7	
2	銀ビルストアー(ボンマルシェ)姫路店	スーパー	2,990	S31.5	
3	むつみ家具	家具	2,980	S47	
4	板文 本館	家具	1,132	S47.3	
5	洋服の青山 姫路駅南本店	紳士服	1,096	S54.10	
	姫路フォーラス	専門店	14,652	S56.4	●
6	板文 ガレリア館	家具	1,484	H3.9	
7	ボンマルシェ大手前店(スクエアビル)	スーパー・本・CD	2,988	H17.5	
	プリエ姫路	ショッピングセンター	5,613	H20.12	※
8	イオンタウン姫路	ショッピングセンター	13,007	H23.2	
9	ピオレ姫路	ショッピングセンター	13,172	H25.4	
10	テラッソ姫路	ショッピングセンター	6,873	H27.7	
11	マルイト姫路ビル	ホテル・ショッピングセンター	5,260	H30.3	

(資料:大店立地法届出)

※プリエ姫路は平成25年4月30日をもってピオレ姫路へ統合



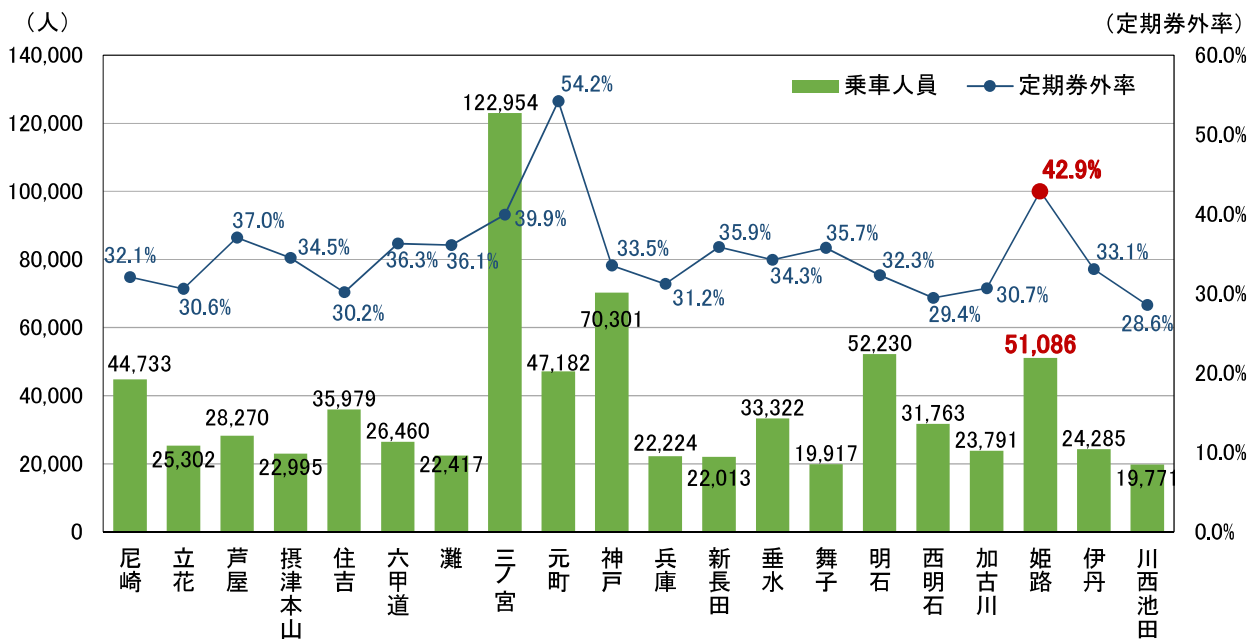
● 中心市街地内の大規模小売店舗

③公共交通に関する状況

1) 鉄道利用者数

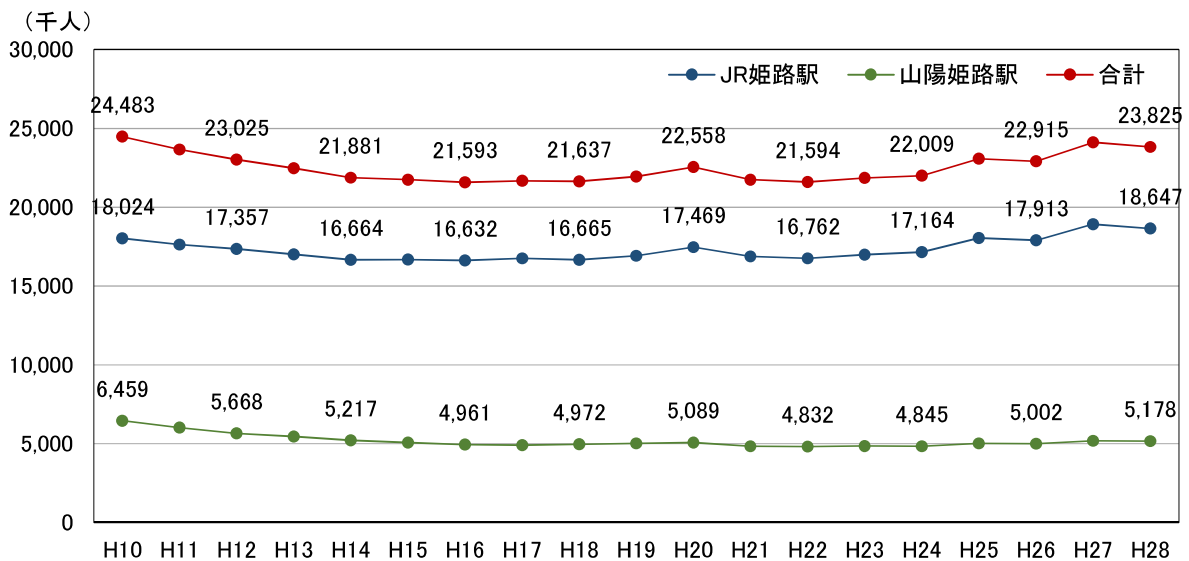
JR姫路駅の一日平均乗車人員は、兵庫県下のJR駅では三ノ宮、神戸、明石に次いで4番目に多い。また、全乗車人員に対する定期券を利用しない乗車人員の割合は、県下JR主要駅の中では元町に次ぐ2番目の高さとなっており、観光・買物等の自由目的や業務目的等の利用比率が高いことがわかる。

JR姫路駅及び山陽電鉄の山陽姫路駅の年間乗車人員の推移をみると、山陽姫路駅はほぼ横ばい状態で推移しているが、JR姫路駅は近年増加傾向であり、観光客の増加とともに、居住者が増加していることも要因であると考えられる。



●兵庫県下の主要JR駅における一日平均乗車人員と定期券外率(平成29年度)

(資料:兵庫県統計書)



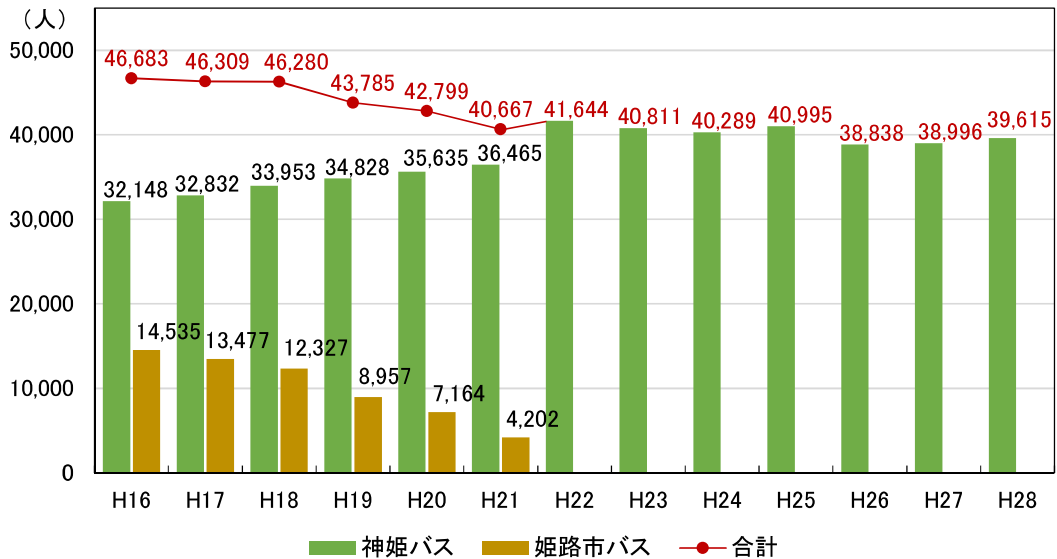
●JR姫路駅及び山陽姫路駅の年間乗車人員の推移

(資料:姫路市統計要覧)

2) バス関連事業実施に伴うバス利用者数

路線バスの日あたり利用者数は、平成28年度で39,615人であり、平成26年度に減少したが、その後は微増傾向にある。

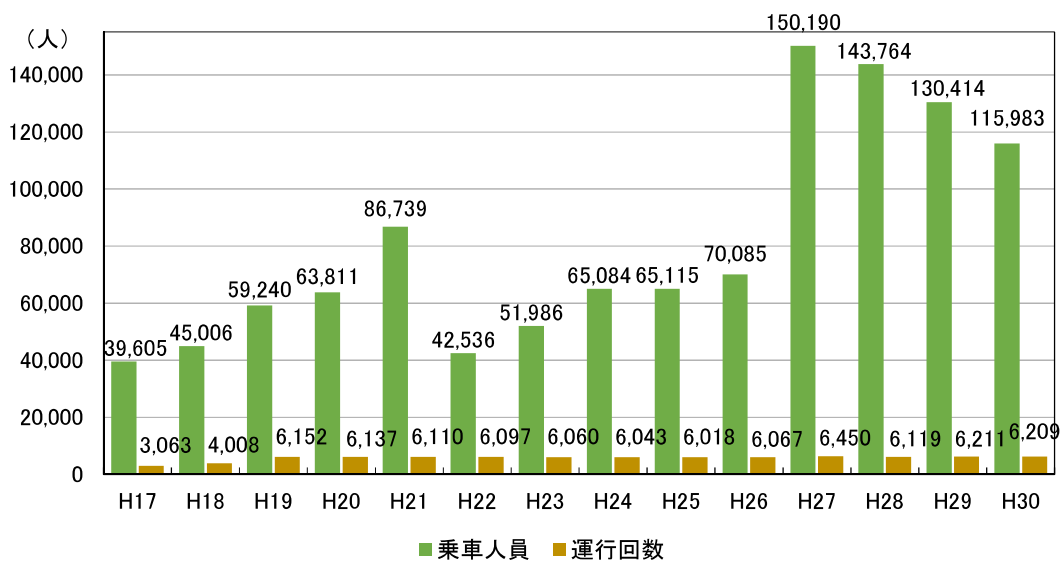
姫路城周辺観光ループバスは、平成27年3月の姫路城改修後のグランドオープンの効果により、平成27年度の利用者数は150,190人と大幅に増加し、平成30年度は115,983人と減少しているが、未だに高い数値となっている。平成27年度以降、路線バスとあわせて、バスの利用者は増加しており、公共交通の重要性が高まっていることがうかがえる。



● 姫路市における路線バスの日あたり利用者数推移

(資料: 姫路市統計要覧)

※平成22年3月に市営バスは神姫バスに移譲



● 姫路城周辺観光ループバスの運行実績推移

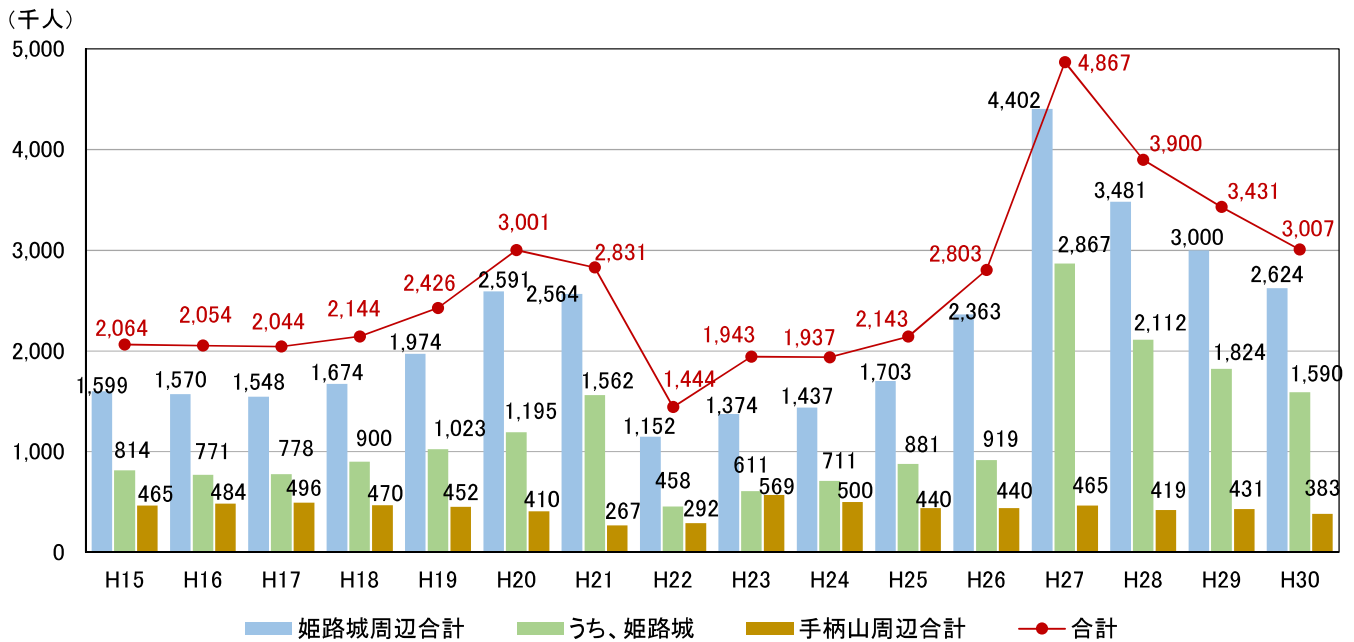
(資料: 姫路市入込客数・観光動向調査)

④観光に関する状況

1) 主要観光施設の入込客数・姫路城登閣者数を踏まえた来街者数

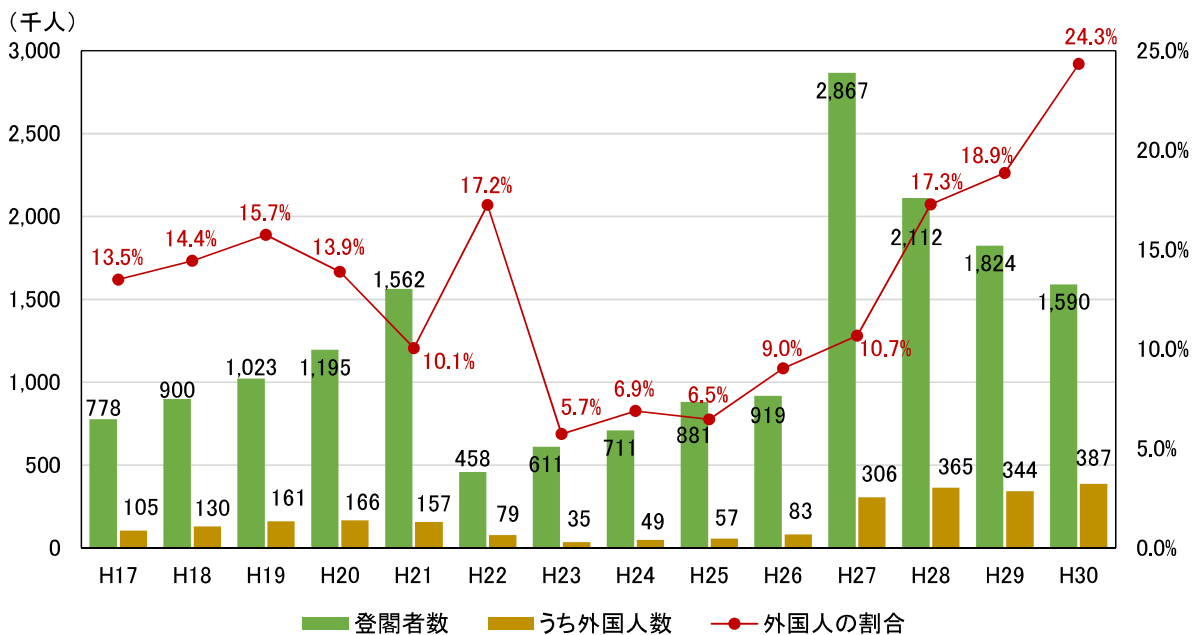
中心市街地に関連する主要観光施設の入込客数は、平成27年度に486万人と大きく増加しており、平成27年3月の姫路城改修後のグランドオープンによる効果が見られる。平成30年度は300万人と減少傾向にあるが、未だに高い数値となっている。

あわせて、外国人の姫路城登閣者数が増加しており、平成30年度には38万人で全体の4分の1を占める割合となっている。



● 中心市街地に関連する主要観光施設の入込客数の推移

(資料: 姫路市入込客数・観光動向調査)



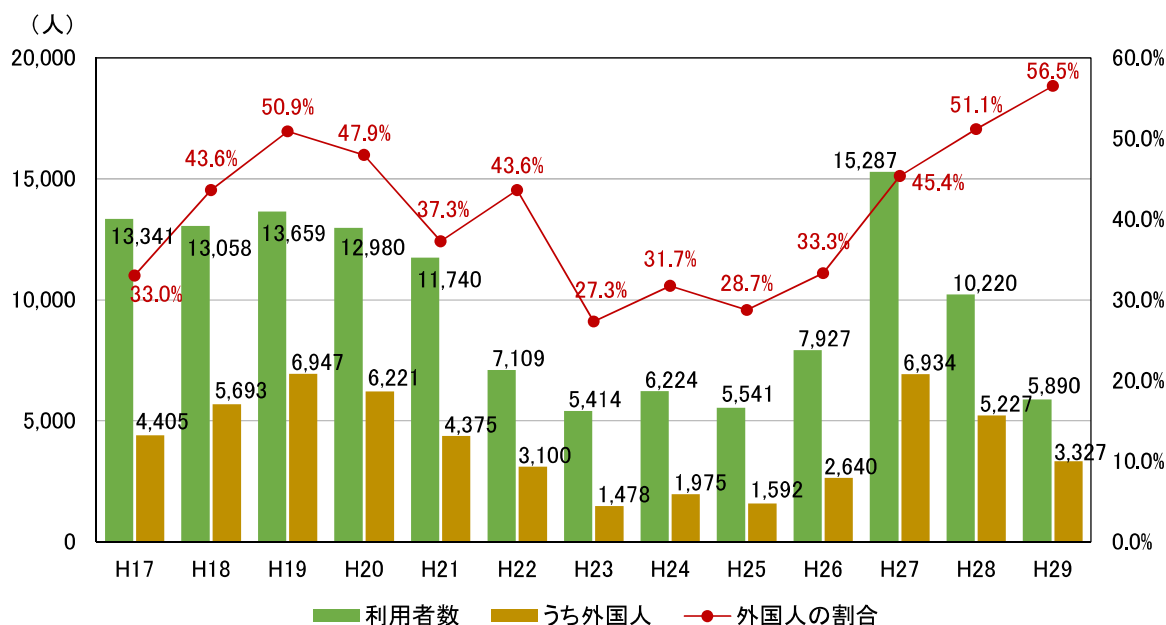
● 姫路城登閣者数の推移

(資料: 姫路市入込客数・観光動向調査)

2) レンタサイクル事業の状況

観光レンタサイクル事業は、平成29年11月末日に終了となり、コミュニティサイクル事業が平成26年、27年の社会実験を経て、平成28年度より本格的に運用されることとなった。平成30年8月時点で、姫路駅や姫路城周辺を中心にサイクルポートが20箇所設置されている。

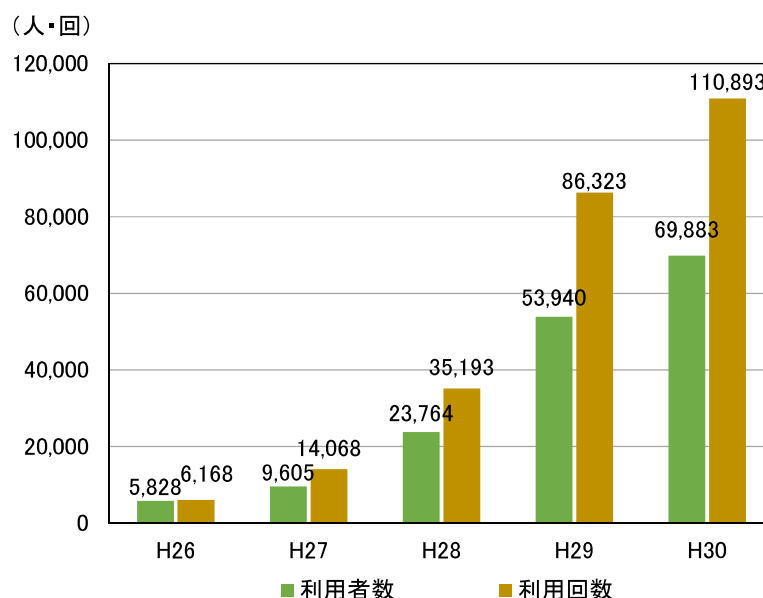
コミュニティサイクル(姫ちやり)利用者数は、平成30年度で69,883人となっており、運用開始以降、大幅に増加している。



●観光レンタサイクル利用者数の推移

(資料: 姫路市入込客数・観光動向調査)

※観光レンタサイクル事業は、平成29年11月末日で終了



●コミュニティサイクル(姫ちやり)利用者数の推移

(資料: 姫路市入込客数・観光動向調査)

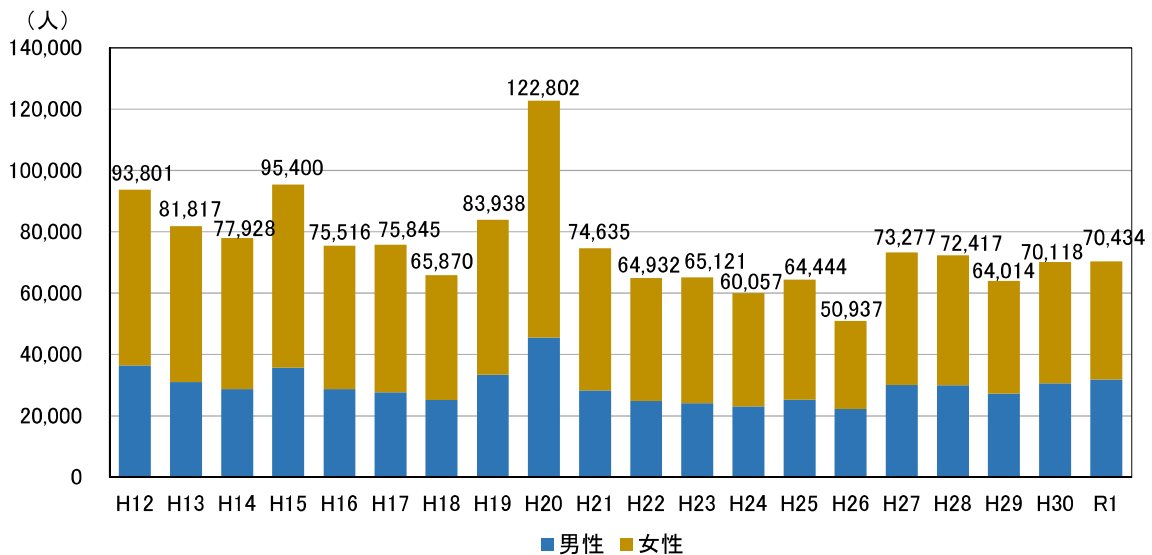
⑤ 通行量に関する状況

1) 歩行者・自転車通行量(休日)

休日の歩行者・自転車通行量は、近年では平成27年度にピークとなり、その後やや減少傾向となっている。平成29年度の調査は午後に天候が急変した影響もあり、全体的に通行量が大きく減少したが、平成30年度には回復し、令和元年度も増加している。

このことは、姫路城のグランドオープンや姫路駅周辺整備事業による効果、姫路駅周辺の商業施設による集客効果が落ち着いてきている状況の中、市民や観光客へのPRやにぎわい創出に向けた取組みの効果によるものと考えられる。

地点別にみると、令和元年度の通行量が平成30年度より減少しているのは、「調査地点3 御幸通商店街(BORBOSS西)」「調査地点4 御幸通商店街(カフェ・ド・クリエ西)」「調査地点7 二階町商店街(POSH CLUB南)」の3地点であり、特に調査地点4、調査地点7に関しては、ヤマトヤンキ姫路店の閉店の影響や駅から離れた立地性が要因として考えられる。

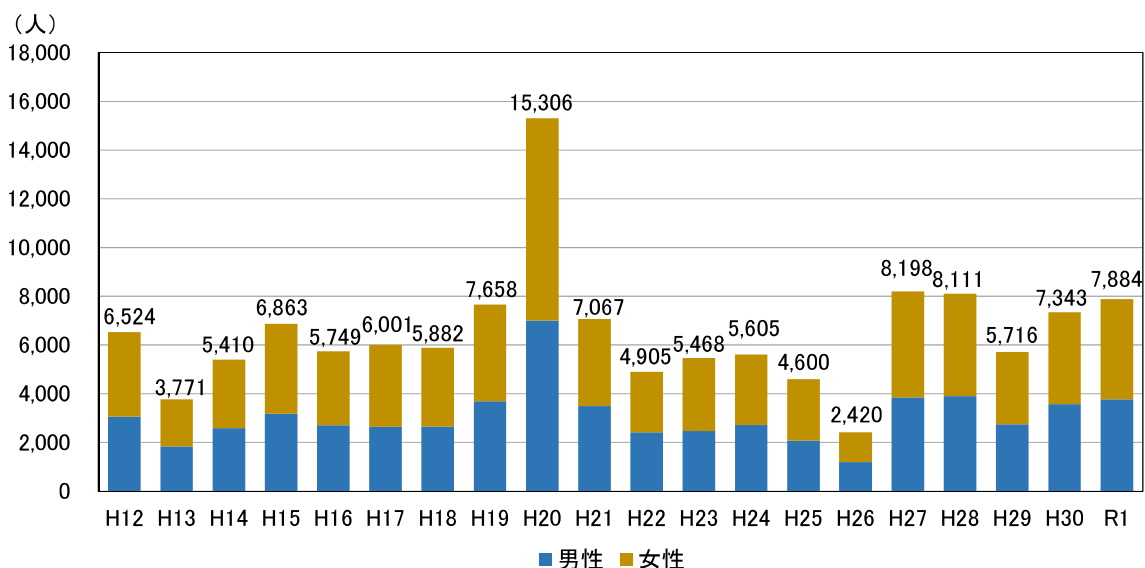


● 歩行者・自転車通行量(休日)

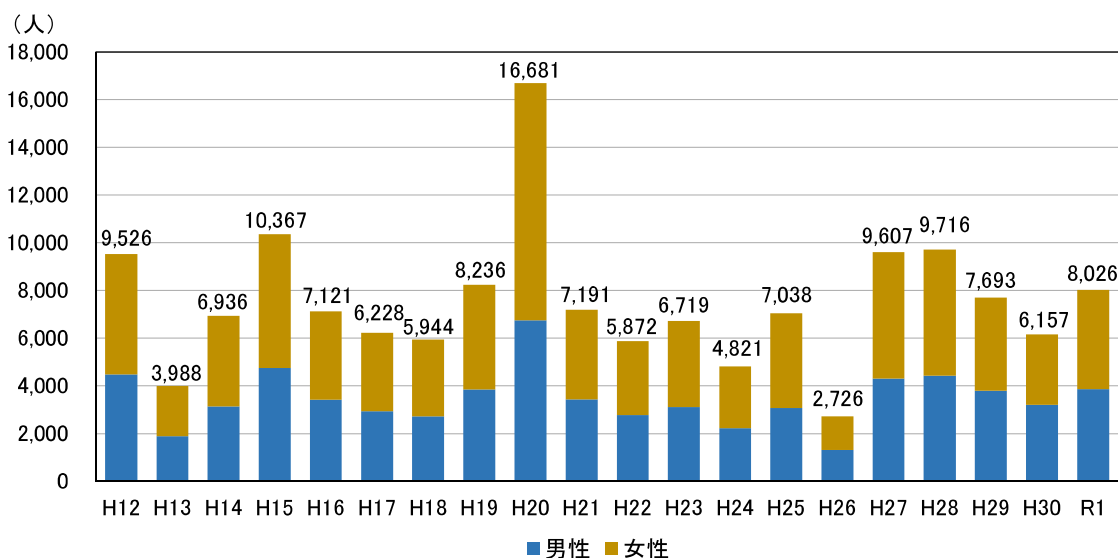
(資料:姫路市中心市街地通行量調査)



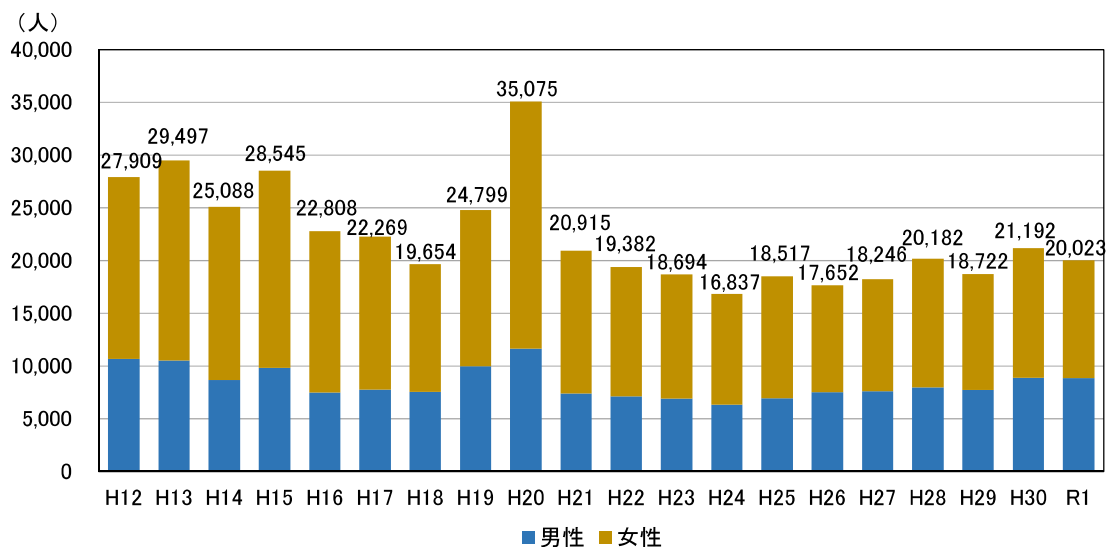
● 通行量主要調査地点(7箇所)



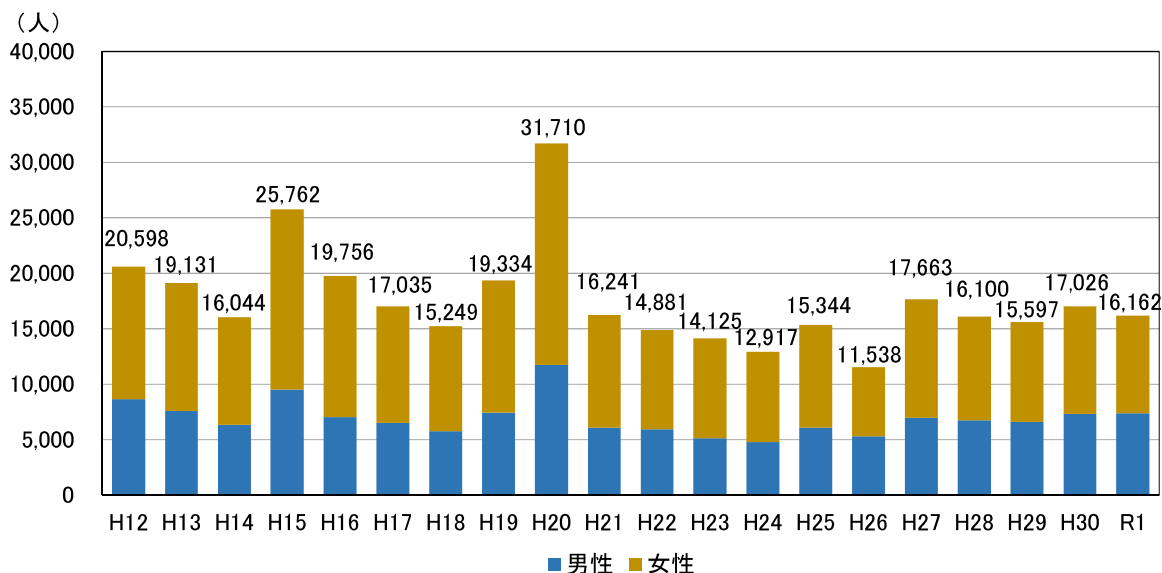
●調査地点1 大手前通り・西(大原学園東)



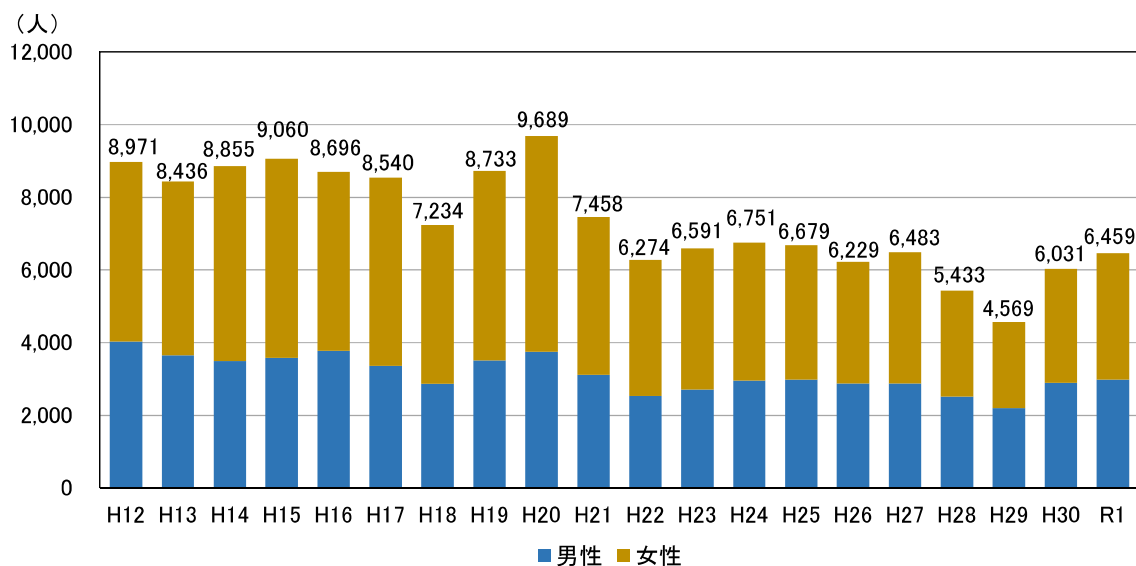
●調査地点2 大手前通り・東(みずほ銀行西)



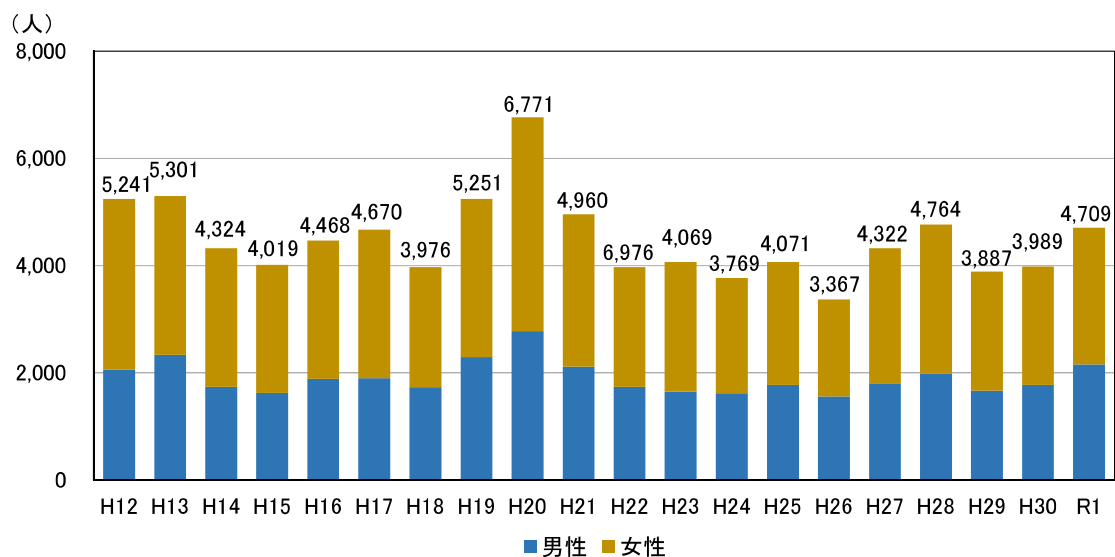
●調査地点3 御幸通商店街(BORBOSS西)



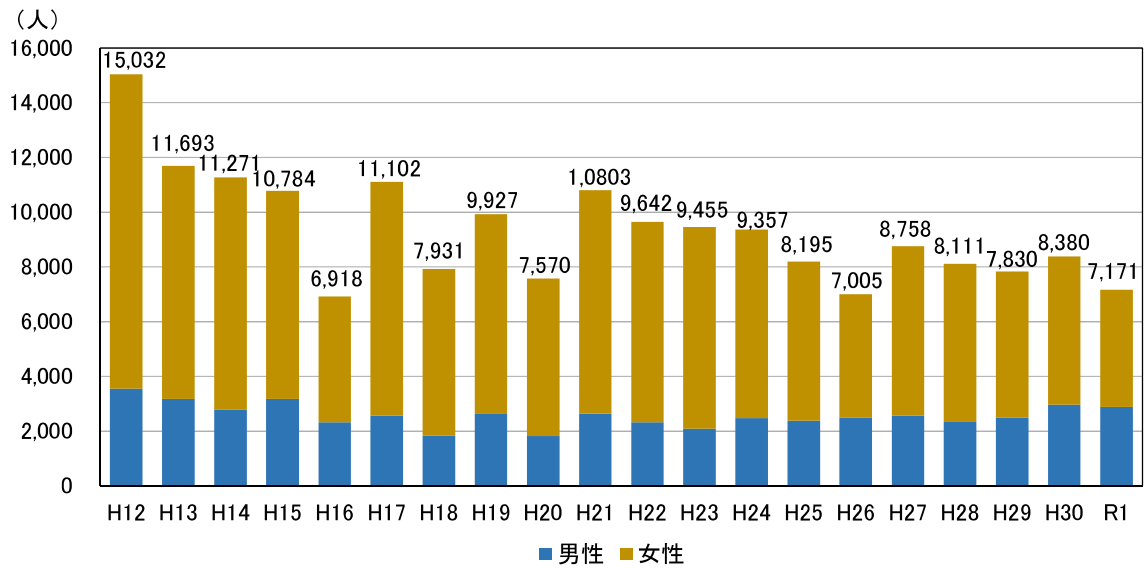
● 調査地点4 御幸通商店街(カフェ・ド・クリエ西)



● 調査地点5 小溝筋商店街(旧FORUS西館東)



● 調査地点6 西二階町商店街(西松屋南)

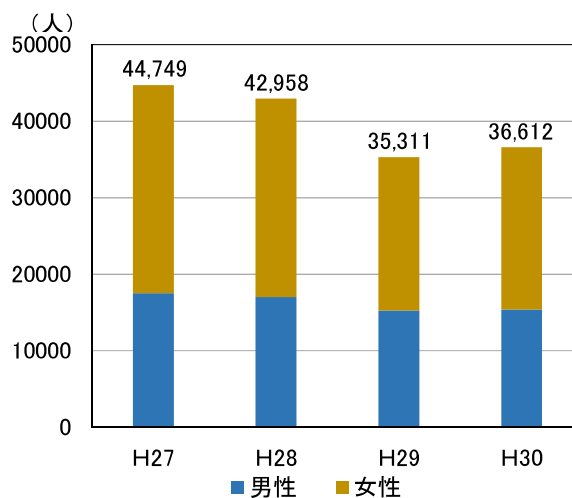


●調査地点7 二階町商店街(POSH CLUB南)

2) 歩行者・自転車通行量(平日)

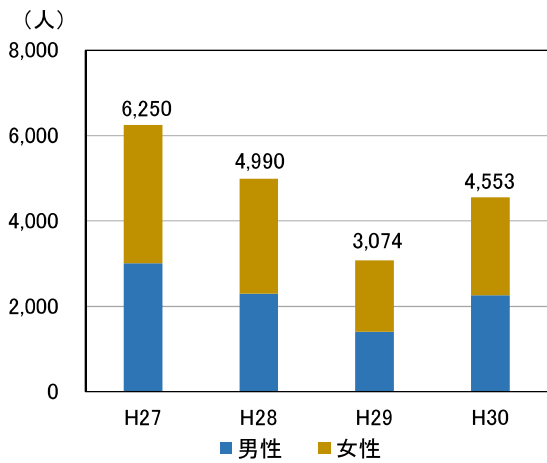
平日の歩行者・自転車通行量は、平成27年度が最も多く、その後やや減少傾向となっている。平成29年度は、調査当日の天候が優れなかったことも影響し、大手前通り等屋外の調査地点を中心に通行量が平成28年度と比べて大きく減少した。平成30年度は、前年度と比べて天候にも恵まれ、8割以上の調査地点で前年度よりも通行量が増加した。天候に恵まれていた平成28年度と比較した場合、中心市街地全体の通行量はやや減少している。

地点別にみると、令和元年度の通行量が平成30年度より減少しているのは、「調査地点3 御幸通商店街(BORBOSS西)」「調査地点4 御幸通商店街(カフェ・ド・クリエ西)」の2地点であり、特に調査地点4に関しては、ヤマトヤシキ姫路店の閉店の影響や駅から離れた立地性が要因として考えられる。

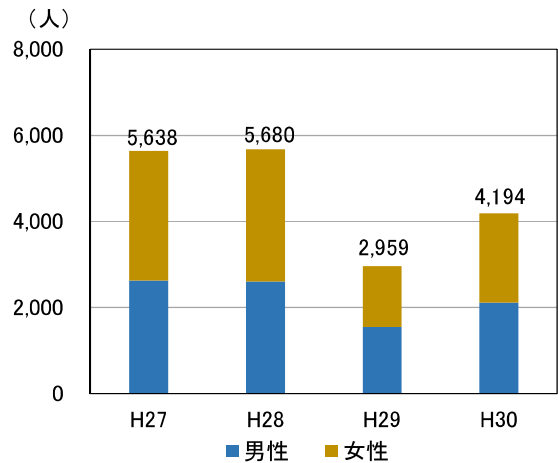


●歩行者・自転車通行量(平日)

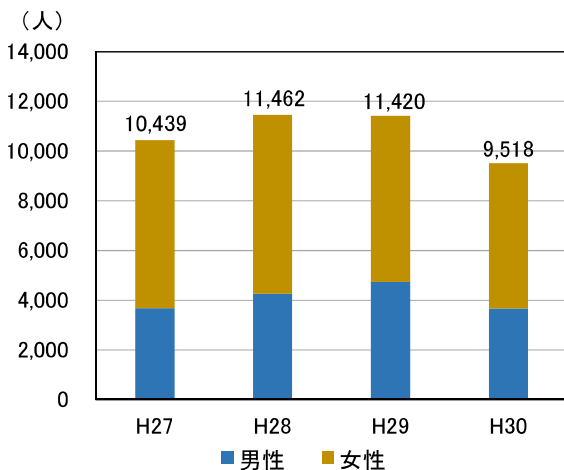
(資料:姫路市中心市街地通行量調査)



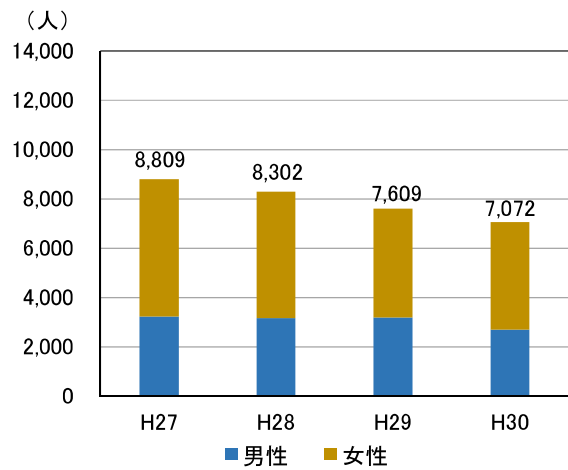
●調査地点1 大手前通り・西(大原学園東)



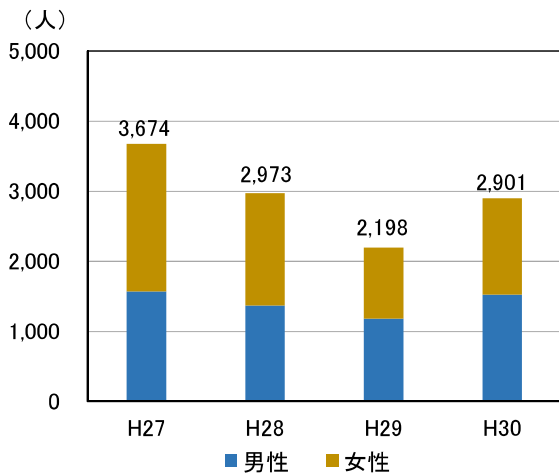
●調査地点2 大手前通り・東(みずほ銀行西)



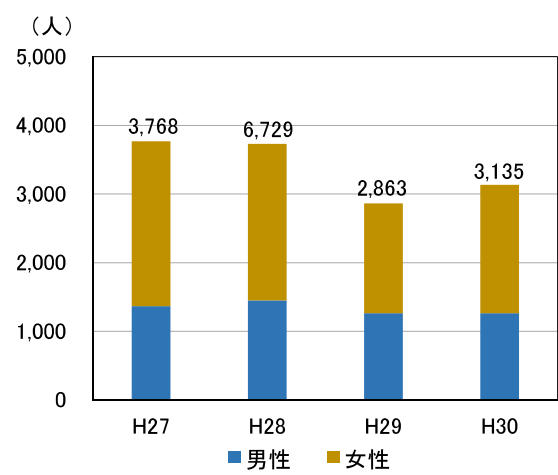
●調査地点3 御幸通商店街(BORBOSS西)



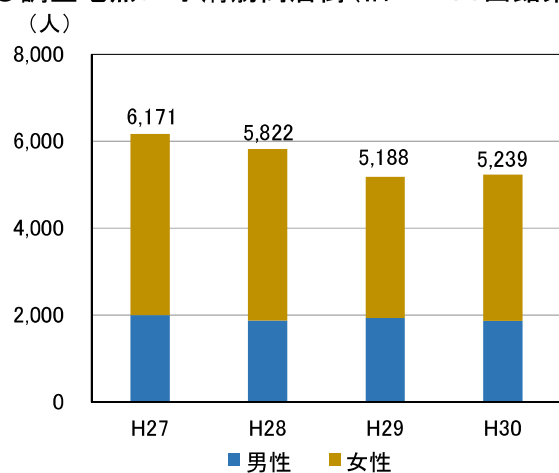
●調査地点4 御幸通商店街(カフェ・ド・クリエ西)



●調査地点5 小溝筋商店街(旧FORUS西館東)



●調査地点6 西二階町商店街(西松屋南)



●調査地点7 二階町商店街(POSH CLUB南)

3) 自動車交通量

中心市街地における主要交差点での自動車交通量は減少傾向にある。これは都心環状道路網の整備により、南北交通の円滑化が図られ、中心市街地への通過交通が減少していることが理由の1つであると考えられる。



●自動車交通量の調査地点

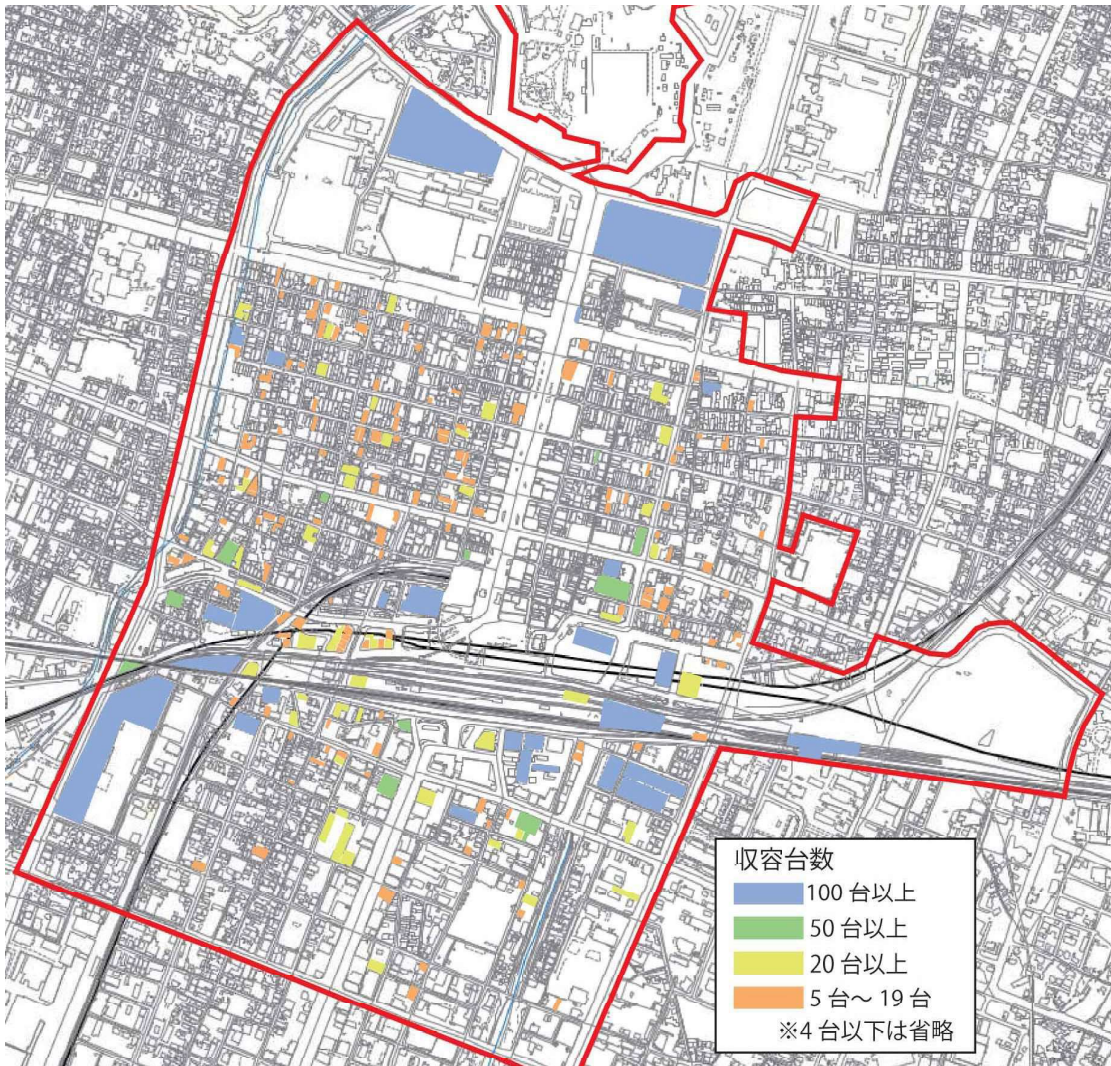
■中心市街地の主要交差点での自動車交通量の推移（単位：台）

	調査地点	H12	H16	H20	H24	H28	前回比較増減
1	白銀交差点	32,540	32,028	30,126	21,457	19,929	-1,528
2	大手前交差点	37,384	36,566	32,049	27,200	26,929	-271
3	姫路駅南交番前交差点	32,613	19,127	19,029	23,745	22,258	-1,487
4	延末1交差点	34,152	33,000	29,651	28,830	31,804	2,974
5	城見台公園前交差点	28,227	27,096	24,527	22,817	23,219	402
6	北条口3交差点	33,912	29,375	27,949	23,694	21,707	-1,987
7	白鷺橋交差点	32,879	31,293	27,423	28,782	26,837	-1,945
8	福沢町交差点	-	33,712	31,245	33,842	34,726	884
9	市之橋交差点	-	-	-	19,475	-	-
10	姫路城前交差点	-	-	-	16,259	-	-

(資料:姫路市統計要覧)

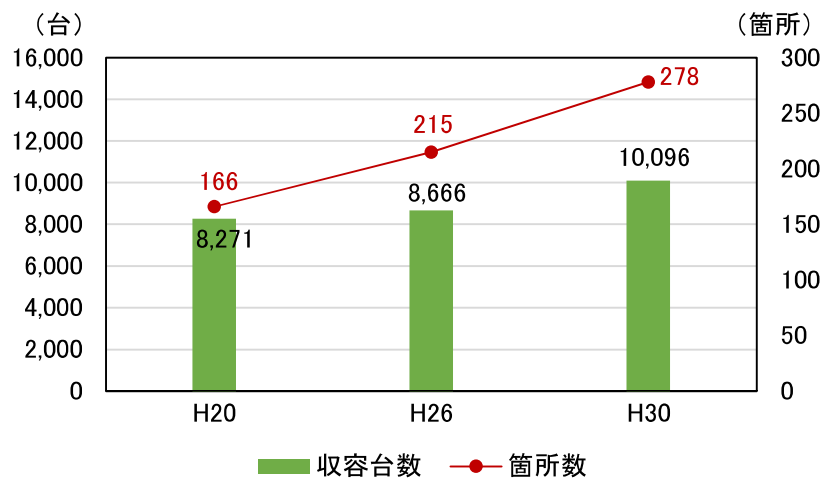
4) 駐車場収容台数

中心市街地の一時預かり駐車場収容台数は、平成30年度は278箇所、収容台数は10,096台となっており、増加傾向にある。エリア別にみると、中心市街地の北西部には5～19台の中規模駐車場が多く分布し、姫路駅南側には20台以上の大規模駐車場が多く存在している。



● 中心市街地での駐車場整備状況

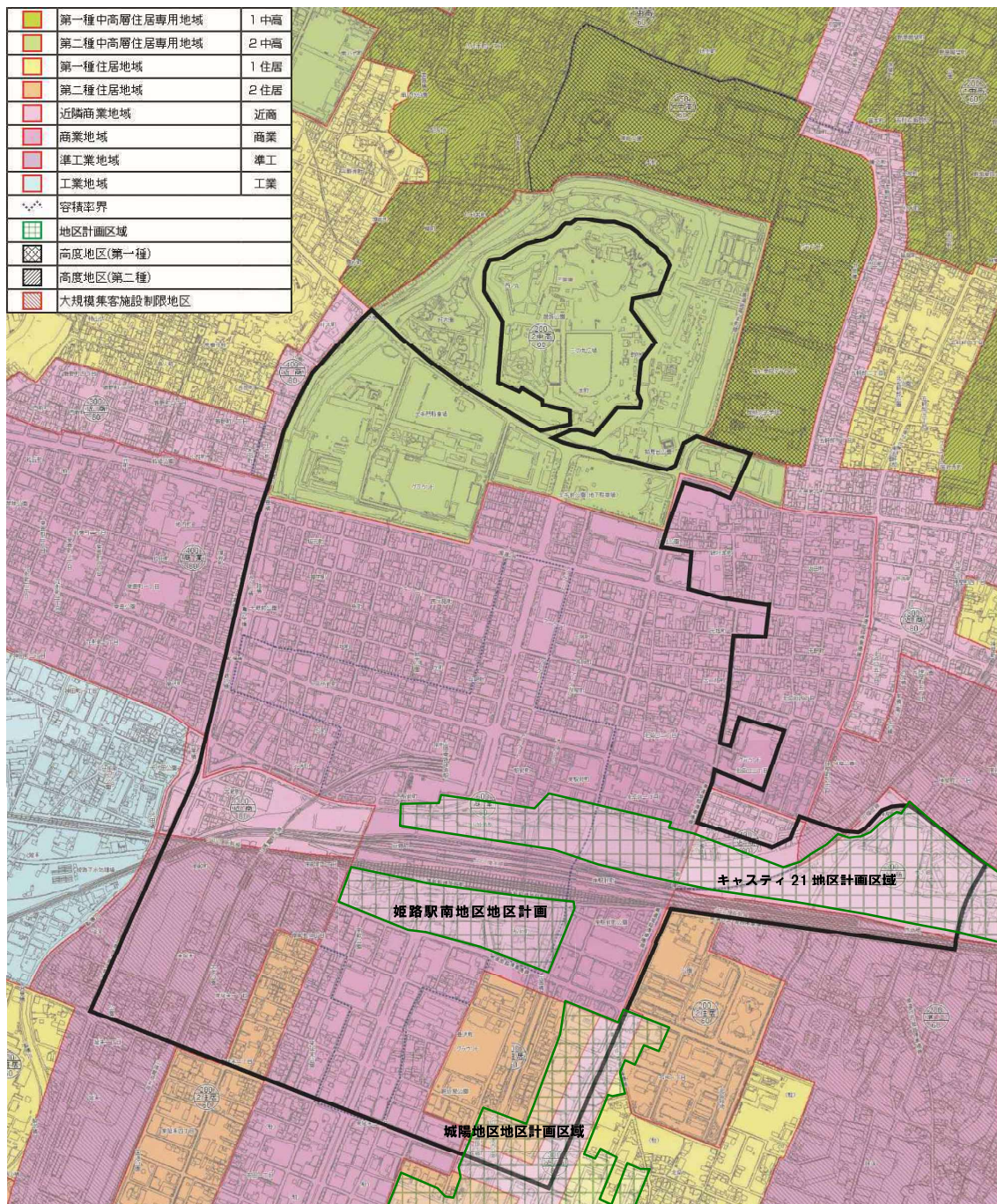
■ 駐車場収容台数の推移



⑥土地利用に関する状況

1)用途地域

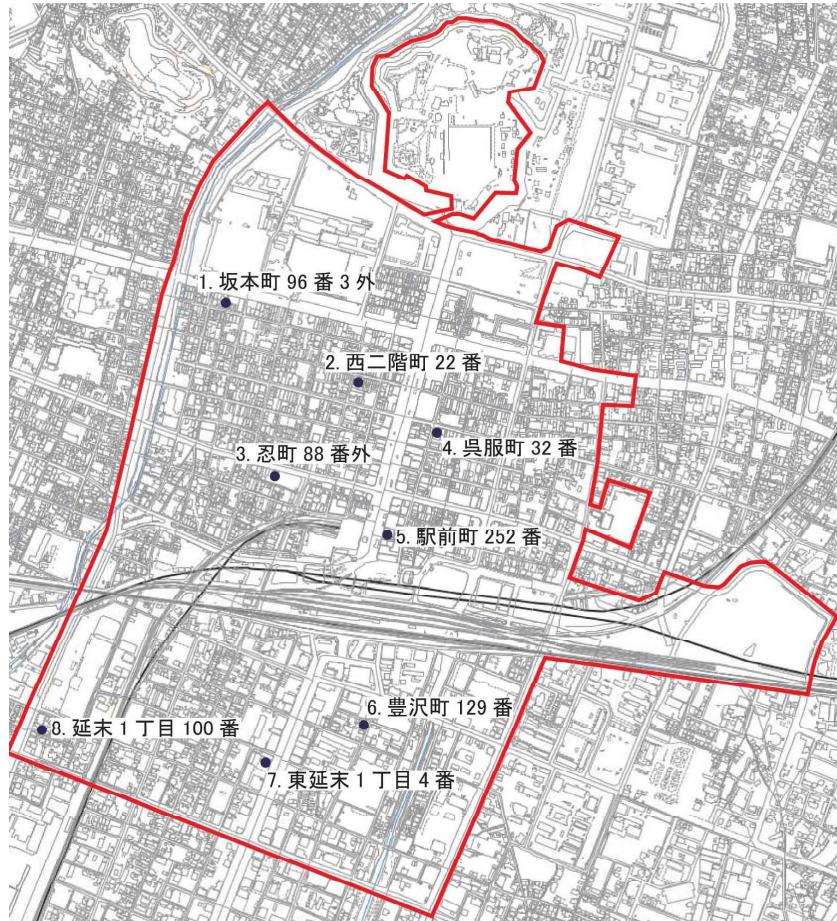
中心市街地では、姫路駅を中心に広範囲にわたって商業系用途地域に指定されており、姫路駅周辺及び大手前通り・駅南大路沿道では、容積率が600%に指定されている。商業系地域の北側には中高層住居系用途地域、南側には住居系用途地域に指定され、一部には準工業地域も存在する。姫路駅周辺においては、「キャストィ21地区」「姫路駅南地区」「城陽地区」の3つの地区計画区域が都市計画決定されている。



●中心市街地における用途地域等指定状況

2)地価

中心市街地の地価公示価格は、全体的に上昇傾向にあり、「5.駅前町252番」は、平成24年を基準年とすると、平成30年は約120万円/㎡で、42.0%の上昇率となっており、姫路駅前の商業地の地価が上昇している。姫路駅南側の「6.豊沢町129番」「7.東延末1丁目4番」の住居地域も上昇しており、民間マンションの建設等の影響がうかがえる。



●地価公示価格の調査地点

■中心市街地の地価

所在地	用途地域等	姫路駅からの距離	1㎡当たりの価格(円)							H24～H30 上昇率
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
1.坂本町96番3外	商業・準防火 (80/400)	1,100m	138,000	136,000	-	135,000	136,000	136,000	-	-1.4%
2.西二階町22番	商業・防火 (80/400)	700m	137,000	134,000	133,000	133,000	133,000	136,000	141,000	2.9%
3.忍町88番外	商業・防火 (80/600)	550m	253,000	251,000	255,000	255,000	255,000	258,000	259,000	2.4%
4.呉服町32番	商業・防火 (80/400)	550m	461,000	441,000	430,000	420,000	420,000	424,000	426,000	-7.6%
5.駅前町252番	商業・防火 (80/600)	200m	845,000	850,000	876,000	920,000	965,000	1,050,000	1,200,000	42.0%
6.豊沢町129番	商業・防火 (80/600)	300m	216,000	214,000	214,000	214,000	215,000	219,000	224,000	3.7%
7.東延末1丁目4番	商業・防火 (80/600)	450m	428,000	421,000	417,000	417,000	421,000	430,000	439,000	2.6%
8.延末1丁目100番	準工 (60/200)	1,000m	98,900	98,700	98,500	98,500	98,500	98,800	99,200	0.3%

(資料:国土交通省地価公示調査)

⑦既存ストックの分布状況

中心市街地には、わが国を代表する歴史的・文化的資源である世界文化遺産・姫路城が存在し、登閣者は年間約159万人(平成30年度)となっており、近年は外国人観光客の割合が増えてきている。また、姫路城の周辺には、姫路城西御屋敷跡庭園・好古園や、兵庫県立博物館、姫路市立美術館、姫路市立動物園等が立地している。

このほかにも中心市街地とその周辺には、神社仏閣等の歴史的・文化的資源が存在し、観光資源としてだけでなく、祭りや年中行事によって地域住民等の交流の場として活用されているものもあり、中心市街地への集客や地域の活性化に寄与している。

これらの豊かな歴史的・文化的資源を活用し、観光集客はもとより商業とのタイアップによる新たな観光産業の創出や回遊性の向上を図り、これまで中心市街地を単に通過していた来街者をまちなかに呼び込み、滞留を促す仕掛けづくりが求められる。

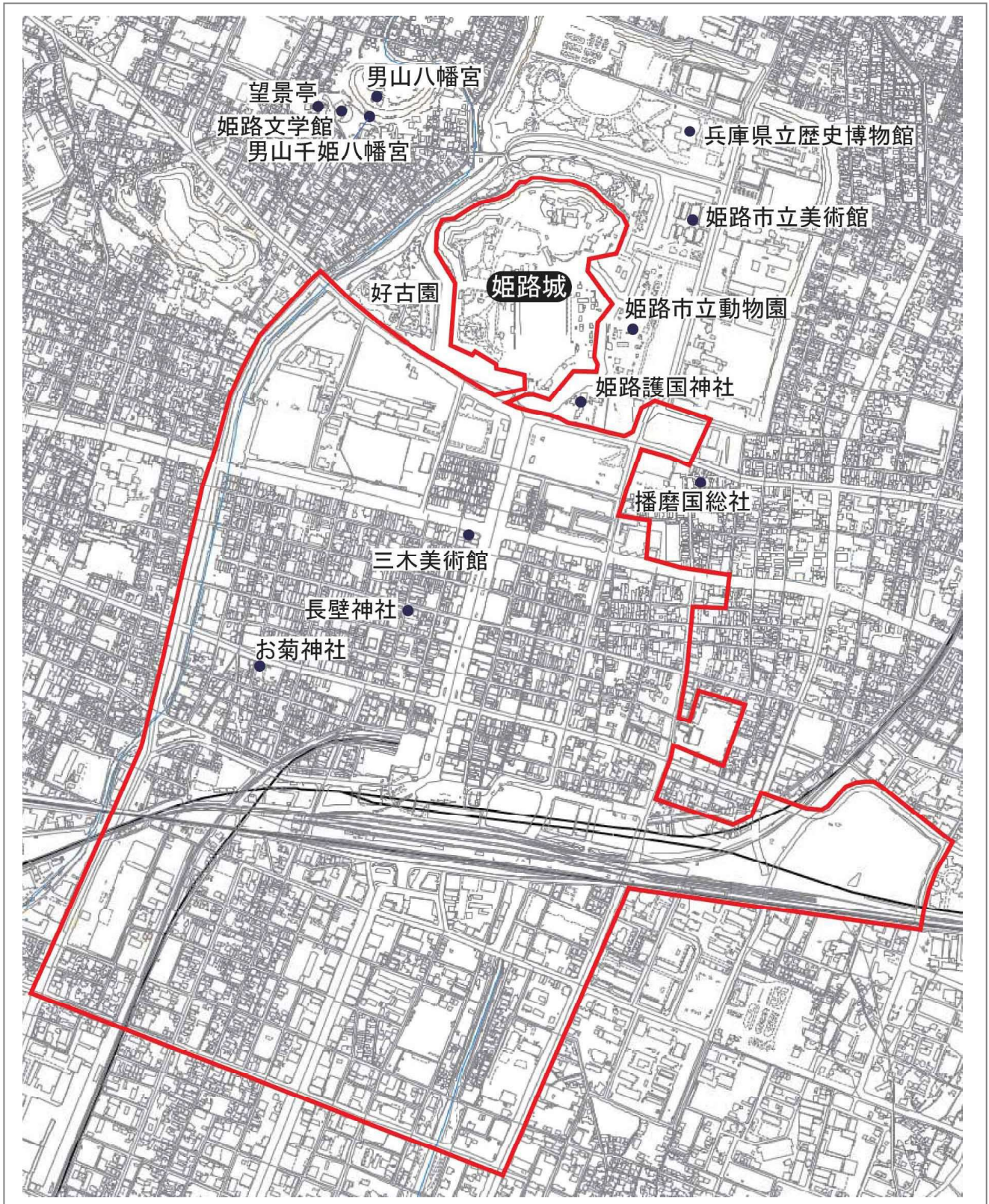
市民生活に密着した公的なサービス施設としては、山陽百貨店内に駅前市役所があり、営業時間も午後7時30分までと長く、市民生活の利便性向上に寄与している。その他の公的施設については、兵庫県姫路総合庁舎、兵庫県旅券事務所姫路出張所・男女共同参画推進センター・国際交流センター・人権啓発センター(イーグレひめじ内)、公益財団法人姫路・西はりま地場産業センター等がある。また、国の出先機関、市役所、商工会議所等は中心市街地外縁部に立地している。

教育施設については、県立の姫路聴覚特別支援学校、私立の姫路女学院高等学校のほか、本市初の義務教育学校である市立白鷺小中学校や、総合教育センター等があり、姫路駅南側には専門学校も多く立地している。また中心市街地外縁部には県立の姫路東・姫路北高等学校、私立の淳心学院、賢明女子学院が立地している。

コミュニティ施設については、市民会館、姫路キャスパホール、姫路市観光案内所、姫路市民ギャラリー・市民アリーナ(イーグレひめじ内)等があり、公共の集会施設としては、城南公民館、城巽公民館がある。

医療・福祉施設は、病院、診療所が多数立地し、高齢者福祉施設及び保育所・託児所が数か所ある。また中心市街地外縁部には、独立行政法人国立病院機構姫路医療センター、姫路市保健所等がある。

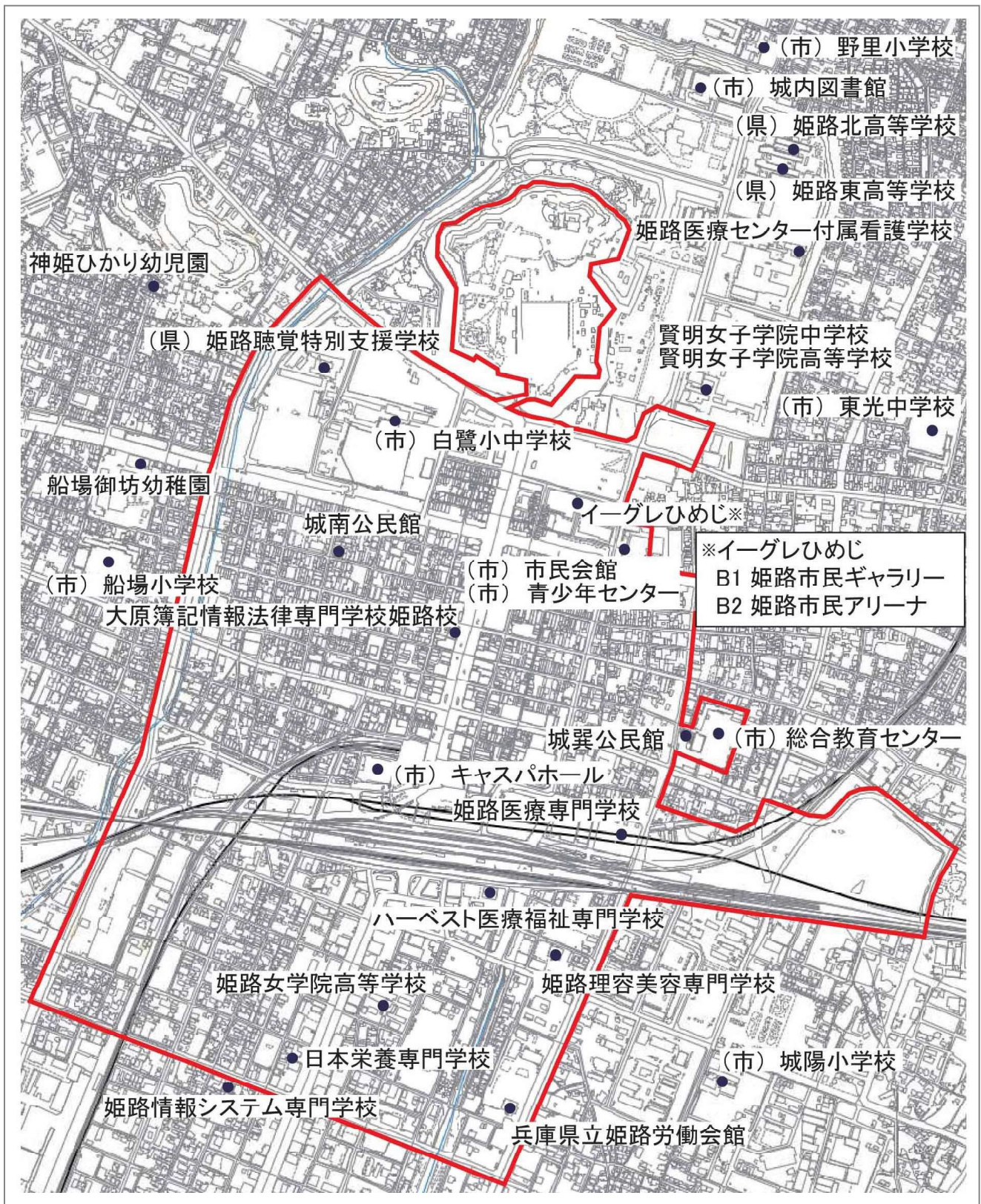
このように中心市街地とその周辺部を合わせると、本市はもとより播磨地域の中核に相応しい施設が相当数集積しており、これらの施設の利用者を中心市街地内の商店街等に引き込むような取り組みや、高齢者・子育て支援施設の充実が必要と考えられる。



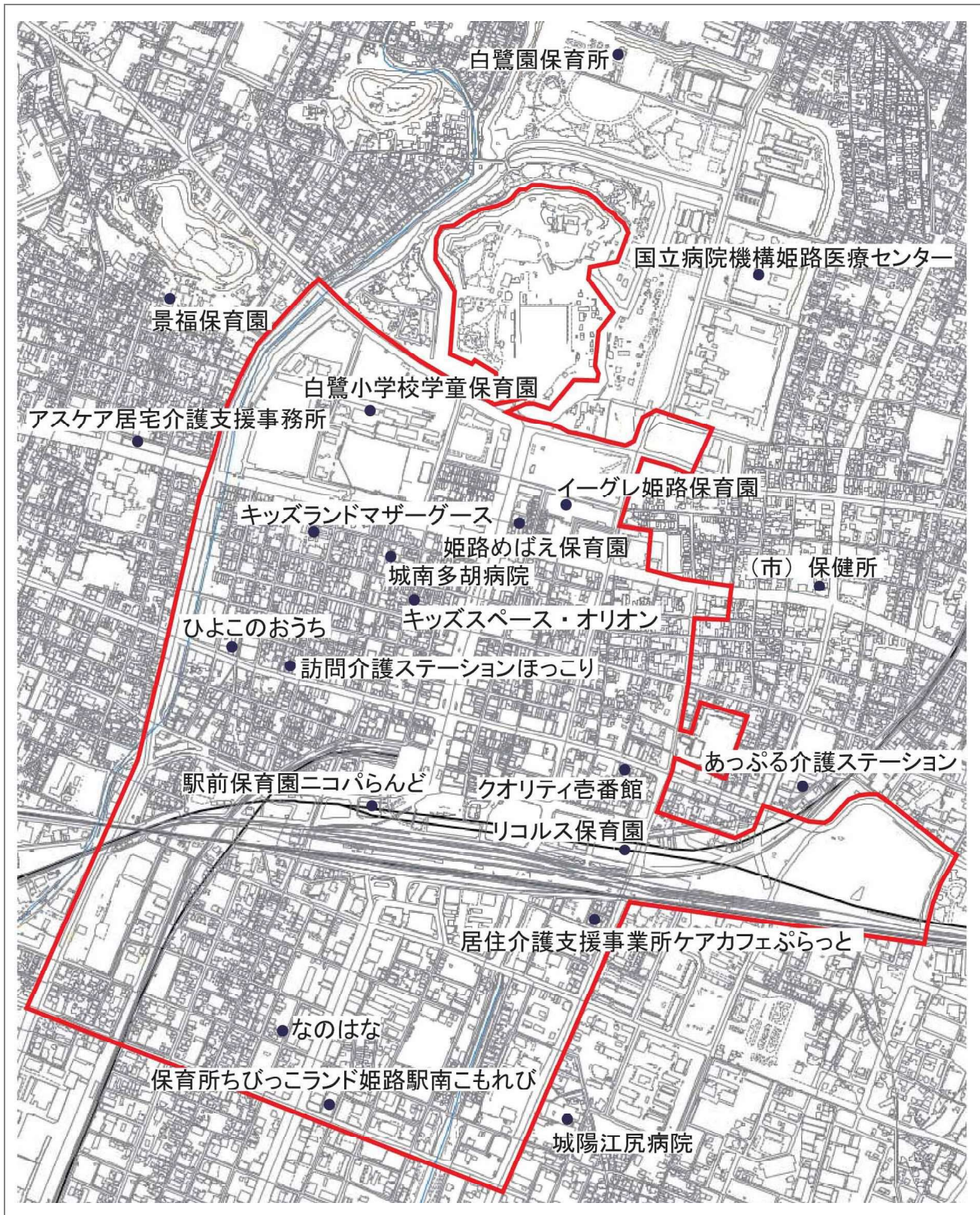
● 歴史・文化的資源の分布



● 公共・公益施設の分布



●教育・コミュニティ施設の分布



●医療・福祉関連施設の分布